

平成25年6月7日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2009～2012

課題番号：21243025

研究課題名（和文）ソーシャル・キャピタルの統計解析と公共政策に関するフロンティア研究

研究課題名（英文）Frontier studies of statistical and public policy research on social capital

研究代表者

山内 直人（YAMAUCHI NAOTO）

大阪大学・大学院国際公共政策研究科・教授

研究者番号：90243146

研究成果の概要（和文）：本研究は、「ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）」の定量的把握および統計的分析からその経済社会的効果を分析し、政策的意義について検討・評価することを目的としたものである。研究の成果を通じて、抽象的概念であるソーシャル・キャピタルの定量的把握に関する手法を開発、新しいソーシャル・キャピタル指標を提示し、それを用いた実証分析を行うことが可能となった。また、これまで十分に解明されてこなかったソーシャル・キャピタルの日本的特徴を把握し、多様な政策対象とソーシャル・キャピタルとの関係性に関する理論的、実証的示唆を得るとともに、ソーシャル・キャピタルの社会的意義や政策的インプリケーションに関する検討課題や論点を整理した。

研究成果の概要（英文）：This research primarily focused on two objects; to analyze the economic/social impact; to examine and assess the signification on policies; based on quantitative analysis and statistical understanding of social capital.

Through the outcomes of the study, some methods were developed to grasp quantitatively an abstract concept of social capital presenting a new set of index of social capital, which enabled it to conduct the empirical analysis.

The important accomplishment of this research is the comprehension of the peculiar nature of social capital to Japanese society, while it had not been clarified adequately up to that time. Furthermore, it achieved these additional results; understanding of theoretical and empirical suggestions considering the relation between diverse subjects for policies towards social capital; classifying both the value of social capital for a society and themes to examine or topics on policy implications.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	10,200,000	3,060,000	13,260,000
2010年度	7,000,000	2,100,000	9,100,000
2011年度	7,000,000	2,100,000	9,100,000
2012年度	7,000,000	2,100,000	9,100,000
総計	31,200,000	9,360,000	40,560,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済政策

キーワード：経済事情、公共政策、ソーシャル・キャピタル、寄付、ボランティア、実証データに基づく政策立案

### 1. 研究開始当初の背景

ソーシャル・キャピタルは、すぐれて学際的な研究対象である。政治学者や社会学者がこの概念に注目し、最近では経済学や経営学から光が当てられようとしていた。さらに、政策的にもきわめて重要な概念であり、そのインプリケーションをめぐって、イギリス、オーストラリアなどの主要国政府や世界銀行、OECD など、有力国際機関も政策研究を開始している。このようにソーシャル・キャピタルとそれに対する公共政策をめぐる研究課題は、学際的な広がりが大きく、かつ政策的にも極めて重要であるため、包括的な研究プロジェクトとして構成する意義と可能性が認められていた。

### 2. 研究の目的

経済・産業の盛衰や様々な社会病理の発生といった経済社会のパフォーマンスに深く関わっているとされる「ソーシャル・キャピタル」について定量的に分析すると同時に、ソーシャル・キャピタルに関する公共政策について検討・評価することを目的としている。

### 3. 研究の方法

#### (1) 文献調査

ソーシャル・キャピタルの定義、分類、理論分析、計測方法、実証分析などに関する先行研究を調査する。

#### (2) アンケート調査

全国のインターネットモニターに対し、寄付、ボランティア、ソーシャル・キャピタルなどについて WEB 上で調査する。

#### (3) データベース作成

ソーシャル・キャピタルに関する既存統計を収集し、データベース化する。中央省庁および地方自治体のソーシャル・キャピタル関連政策を収集分析する。

#### (4) 国内事例調査

①日本国内でソーシャル・キャピタルが豊かだといわれる地域、ソーシャル・キャピタルの形成に成功した地域を実際に訪問し、実地調査 およびヒアリングなどによりその要因を調査する。

②企業内ソーシャル・キャピタルの形成を重視している企業に対し、ヒアリング調査を行い、これら企業に共通する要因があれば抽出する。ソーシャル・キャピタルに関連する政策を内外の運用例から探し、政策効果があったかどうかを推定する。

#### (5) 理論分析

①ソーシャル・キャピタルとシビル・ソサエティ、NPO/NGO など非営利セクターの理論的關係を検討する。

②ソーシャル・キャピタルの蓄積に影響を与える要因を整理・検討する。ソーシャル・キャピタルの2つのタイプ、bonding (結束型) と bridging (橋渡し型) の識別、相互関係などについて検討する。

③情報技術革新がソーシャル・キャピタルにどのような影響を与えるか調査する。

④社会の階層化とソーシャル・キャピタル形成の關係について分析する。

⑤社会病理 (自殺、犯罪、ティーンエイジャーの妊娠など) の発生状況にソーシャル・キャピタルがどのような関連を持っているか、検討する。

⑥政治、宗教などが ソーシャル・キャピタル形成にどのような影響を与えるか分析を見る。

#### (6) 実証分析 (SC インデックス作成等)

収集したデータセットを用いて、都道府県別ソーシャル・キャピタル指数の試作版を作成する。

都道府県別ソーシャル・キャピタル指数を用いて、ソーシャル・キャピタルの地域差の要因分析を行う。ソーシャル・キャピタルの形成に寄与する政策、阻害する政策を峻別し、さらに、ソーシャル・キャピタル形成にプラスの要因としてどのようなものがあるか、検討する。

#### (7) 海外調査

ヨーロッパにおけるソーシャル・キャピタルに関する研究動向、政策検討例、政策実施例などを調査する。

#### (8) 研究会の開催

研究代表者、研究分担者、さらには政治学、社会学、経済学などの専門家からなる学際的な研究会を組織し、定例研究会においては、個別分野の専門家を招聘して、研究報告および意見交換を行うことによって、ソーシャル・キャピタルの社会的意義や政策的インプリケーションについての検討課題を整理する。

#### (9) 学会発表・論文投稿

本研究における研究成果を内外の学会で発表する。米国非営利学会 (ARNOVA)、国際非営利学会 (ISTR)、日本 NPO 学会など、また、内外の専門誌に研究成果をまとめて論文を投稿する。

### 4. 研究成果

抽象的概念であるソーシャル・キャピタルを定量的に把握する方法を開発し、それを用いて新しいソーシャル・キャピタル指標を提示し、それを用いた実証分析を行うことが可能となった。また、これまで十分解明されてこなかったソーシャル・キャピタルの日本的

特徴を把握し、多様な政策対象とソーシャル・キャピタルとの関係性に関する理論的、実証的示唆を得るとともに、ソーシャル・キャピタルの社会的意義や政策的インプリケーションに関する検討課題や論点を整理することができた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 19 件)

① Baba, Hideaki and Ishida, Yu, Empirical Analysis on Preferences of Donors to Financial Information of Civil Society Organizations, ISTR Working Papers Series, (2013) 査読有, VIII, pp.1-23.

② 稲葉陽二、社会関係資本とは何か、なぜ社会関係資本なのか、(2012) 現代の図書館、査読無、vol.5,no.1、pp.5-11.

③ 石田祐 (2012) 高齢者の社会貢献活動を促進する地域特性に関する実証分析」労働政策研究・研修機構編、『高齢者の社会貢献活動に関する研究—定量的分析と定性的分析から』労働政策研究報告書、査読無、no.142、pp.125-149.

④ 永富聡・石田祐・小藪明生・濱野強・藤澤由和 (2012) 社会参加が安全の主観的側面に与える影響—個票データを用いた定量分析地域活性研究、査読有、vol.2、pp.153-158.

⑤ 稲葉陽二 (2011) 暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査—2010 年社会関係資本全国調査の概要、政経研究、査読無、48 巻 1 号、pp.107-130.

⑥ 永富聡・石田祐・小藪明生・稲葉陽二 (2011) 地縁的な活動の参加促進要因—個票データを用いた定量分析、ノンプロフィット・レビュー、査読有、vol.11,no.1、pp.11-20.

⑦ Chulhee Kang, Femida Handy, Naoto Yamauchi 他 10 名, 3・4・5・6・7・8・9・10・11・13 番目 (2011), What gives? Cross-national differences in students' giving behavior, Social Science Journal, 査読無, Volume,48, pp.283-294.

⑧ 山内直人 (2011) 震災復興と寄付・ボランティアの役割、日本労働研究雑誌、査読無、7月号(No.612)、p.1.

⑨ 山内直人、(談・論) 日本の寄付文化は開花するか、旬刊経理情報、査読無、7月10日

号、(2011)、p.1.

⑩ 山内直人、日本の寄付とボランティア：教育における意義と課題、月刊フィランソロピー、査読無、No.341、(2011)、pp.10-13.

⑪ 山内直人、県民幸福度日本一を目指して：福岡県の取り組みについて (報告書)、県民幸福度日本一を目指して：福岡県の取り組みについて (報告書)、査読無、該当無、(2011)、pp.1-21.

⑫ 山内直人、防災・災害復興におけるソーシャル・キャピタルの役割、DIO、査読無、No.265、(2011)、pp.4-7.

⑬ 永富聡・石田祐、小藪明生、濱野強、藤澤由和、社会参加が安全の主観的側面に与える影響—個票データを用いた定量分析、地域活性研究、査読有、10 巻、(2011)、pp.153-158.

⑭ 山内直人、コミュニティにおけるソーシャル・キャピタルの役割、環境情報科学、査読無、Volume 39, Number 1、(2010)、pp.10-15.

⑮ Femida Handy, Naoto Yamauchi, Social and cultural origins of motivation to volunteer: A comparison of university students in six countries, International Sociology, 査読有, Volume 25 Number 3, (2010)、pp.349-382.

⑯ Femida Handy, Naoto Yamauchi, A Cross-Cultural Examination of Student Volunteering: Is It All About Résumé Building?, Nonprofit and Voluntary Sector Quarterly, 査読有, Volume 39 Number 3, (2010)、pp.498-523.

⑰ Haski-Leventhal, D., Yamauchi, N., Service-learning: Findings from a 14-nation study, Journal of Nonprofit & Public Sector Marketing, 査読有, 22(3), (2010)、pp.161-179.

⑱ Okuyama, Naoko; Ishida, Yu; and Yamauchi, Naoto, Public Private Partnership between Local Government and Nonprofits in Japan, Nonprofit Policy Forum, 査読有, 1 巻 1 号, (2010), pp.1-21.

⑲ Hamano, Tsuyoshi; Ishida, Yu, et al. Social Capital and Mental Health in Japan: A Multilevel Analysis, (2010) PLoS ONE, 査読有, 5 巻 10 号, e13214. doi:10.1371/journal.pone.0013214.

[学会発表] (計 43 件)

① 稲葉陽二・石田裕、社会関係資本と災害、日本 NPO 学会第 15 回年次大会、2013.3.16、

東洋大学.

②田中敬文・石田祐、救援・復興に果たす資金の流れ:義援金と支援金[東日本大災害における民間支援の軌跡と動向調査、日本 NPO 学会第 15 回年次大会、2013.3.16、東洋大学.

③山内直人、ソーシャル・キャピタルと市民社会、社会関係資本研究の 20 年を振り返る、2013.3.15、日本大学.

④山内直人、ソーシャル・キャピタルの視点から見た保健医療、大阪公衆衛生協会(講演)、2013.2.8、クレオ大阪中央.

⑤山内直人、幸福度測定と生活の質に関する調査(招待報告)、内閣府経済社会総合研究所、2012.12.17、内閣府経済社会総合研究所.

⑥Ishida, Yu and Baba, Hideaki, elations of Donors' Preference on NPOs' Financial, Association of Research on Nonprofit Organizations and Voluntary Action, 2012.11.17, インディアナポリス(アメリカ).

⑦Ishida, Yu, Social capital as a key factor to achieve better society、日本農村医学会(招待講演)、2012.11.2、島根県民会館.

⑧山内直人、地域再生とソーシャル・キャピタルの役割、国立社会保障・人口問題研究所(招待パネリスト)、2012.10.22、星陵会館.

⑨Naoto Yamauchi, Are Japanese People Happy? Measuring Well-Being and Beyond (Invited presentation), UNESCAP Subregional Meeting on Inclusive and Sustainable Development in East and North-East Asia: Strengthening National Capacity to Produce and use Statistical Information (招待講演), 2012.9.20-2012.9.21, SRO-ENEA, Minzu Hotel, Beijing (China).

⑩Naoto Yamauchi, Social Capital and Child Health Status: Cross-Country Evidence, 2012.7.13, Siena, Italy.

⑪Naoto Yamauchi, Robust Understanding of Philanthropy Using Micro Data: Bilateral Comparison of Prosociality in Japan, Korea and China (as moderator), 10th International Conference of the International Society for Third-Sector Research, ISTR, Universita degli Studi di Siena, 2012.7.11, Siena, Italy.

⑫Naoto Yamauchi, The Roles of Social Capital, Philanthropy and Nonprofits in New Public Commons, Invited lecture, Closed Session:

Social Security during Times of Low Growth, 1st Meeting of the Austria-Japan Committee for Issues of the Future, 2012.6.11, Schloss Mirabell, Salzburg, Austria.

⑬Naoto Yamauchi, Are Japanese People Happy? Measuring Well-Being and Beyond, 1st Meeting of the Austria-Japan Committee for Issues of the Future(招待講演), 2012.6.11, Schloss Mirabell, Salzburg, Austria.

⑭山内直人、幸福度指標について、内閣府経済社会総合研究所、2012.3.19、三田共用会議所.

⑮石田祐、安全・安心な生活基盤とソーシャル・キャピタル、島根大学疾病予知予防研究拠点(招待講演)、2012.3.19、島根大学医学部.

⑯(モデレーター)田中敬文(パネリスト)山内直人・奥山尚子、(公募パネル)専門用語をどう定義するか:メイキング・オブ・最新 NPO・市民社会事典、日本 NPO 学会第 14 回年次大会、2012.3.18、広島市立大学.

⑰(モデレーター)山内直人(パネリスト)田中敬文・奥山尚子・川脇康生・芦田登代、(公募パネル)ソーシャル・キャピタルのインパクト:最新の実証研究から、日本 NPO 学会第 14 回年次大会、2012.3.18、広島市立大学.

⑱小野晶子・浦坂純子・石田祐・梶谷真也・森山智彦・米澤旦・馬欣欣、高齢者の社会貢献活動の分析:就業、収入、健康、満足度、地域の視点から、日本 NPO 学会第 14 回年次大会、2012.3.18、広島市立大学.

⑲山内直人・奥山尚子、日本のソーシャル・キャピタルと寄付・ボランティアの定量分析、日本 NPO 学会第 14 回年次大会、2012.3.17、広島市立大学.

⑳稲葉陽二・菅野剛、全国社会関係資本調査にみる認知的社会関係資本と構造的な社会関係資本の変化、日本 NPO 学会 第 14 回年次大会、2012.3.17、広島市立大学.

㉑山内直人、ソーシャル・キャピタルと健康と幸福度、大阪大学経済学研究科公開寄付講義、2011.12.22、大阪大学.

㉒Naoto Yamauchi, The Role of Civil Society in the Age of Crisis: Lessons from 3.11 Tohoku Earthquake, Korean Association of Nonprofit Organization Research (KANPOR) 2011 Autumn Conference, 2011.12.2, Seoul (Korea).

②③ Naoto Yamauchi, Capability and community development, 7th ISTR Asia Pacific Regional Conference, 2011.11.26, Bali (Indonesia) .

②④ Naoto Yamauchi and Naoko Okuyama, International comparative study on individual philanthropy: An empirical analysis on social preferences and pro-social behavior, 47th ISTR Asia Pacific Regional Conference, 2011.11.25, Bali (Indonesia) .

②⑤ Ishida, Yu and Okuyama, Naoko, Giving Behaviors toward Community Based Organizations in Japan, 7th Asia Pacific Conference of ISTR, 2011.11.25, Sanur Paradise Hotel, Bali (Indonesia) .

②⑥ Naoto Yamauchi and Naoko Okuyama, Individual philanthropy and social preferences: Empirical analysis using the new Japanese micro data, 40th ARNOVA Annual Conference, 2011.11.18, Toronto (Canada) .

②⑦ Ishida, Yu and Okuyama, Naoko, Charitable Giving Toward Local Welfare Services in Japan: Traditional CBOs and Emerging incorporated NPOs, 40th Annual Conference of ARNOVA, 2011.11.17, Westin Harbour Hotel, Toronto (Canada) .

②⑧ 石田祐・永富聡・小藪明生、生活の安心維持に対する影響要因の定量分析—他者づきあいの視点から、日本計画行政学会第 34 回全国大会、2011.11.9、中央大学。

②⑨ 澤井安勇・石田祐・濱野強・奥山尚子・丸田照輝、ソーシャル・キャピタルと政策イノベーション、日本計画行政学会第 34 回全国大会、2011.11.9、中央大学。

③⑩ 石田祐、NPO を支える社会基盤—NPO 法人財務データおよび寄付行動調査データをもとに、関西公共政策研究会第 99 回例会、2011.11.5、京都大学。

③⑪ Naoto Yamauchi and Naoko Okuyama, The role of giving and volunteering for post-disaster reconstruction, ISTR-OSIPP-JANPORA International Conference (Invited lecture), 2011.10.8, Campus Innovation Center Tokyo.

③⑫ 稲葉陽二・菅野剛、全国社会関係資本調査にみる認知的社会関係資本と構造的社会関係資本の変化、日本行動計量学会 第 39 回大会、2011.9.14、岡山理科大学。

③⑬ Naoto Yamauchi and Naoko Okuyama, Social capital and generosity in the community, The International Conference on Social Stratification and Health 2011 (Invited presentation), 2011.8.7, University of Tokyo Hongo Campus.

③⑭ Kanako Yoshikawa and Naoto Yamauchi, Social Capital, Poverty Reduction and Sustainable Development: Regional Comparisons from Cross-Country Data, 7th ISTR Latin American and Caribbean Regional Meeting, 2011.7.13, Buenos Aires (Argentina) .

③⑮ Wendy Earles, Hagai Kats, Alberto, and Beatriz, Enjolras, Brenda Gainer, and Naoto Yamauchi, The recent development of the third-sector research in Japan, in Third sector scholarship around the world: Present and future challenges, 7th ISTR Latin American and Caribbean Regional Meeting, 2011.7.12, Buenos Aires (Argentina) .

③⑯ 山内直人・盧憶、ソーシャル・キャピタルとスポーツ：実証研究の課題と課題、日本広報学会、2011.6.25、同志社大学。

③⑰ Naoto Yamauchi, Recent Developments in Philanthropy and Social Enterprise in Comparative Perspective, ForTeS and ISTR Seminar (Invited presentation), 2011.4.14, Siena (Italy) .

③⑱ Ishida, Yu, Neighborhood Community Associations and Social Capital in Japanese Local Disaster Management, 39th annual conference of ARNOVA (Association for Research on Nonprofit Organizations and Voluntary Action), 2010.11.19, Hilton Hotel, Alexandria, VA, USA.

③⑲ 田中弥生・馬場英朗・石田祐、新しい公共と税制優遇—認定 NPO 法人は寄付文化を促進するか？、非営利法人研究学会 第 14 回大会、2010.9.26、早稲田大学。

④⑰ 永富聡・石田祐・藤澤由和、ソーシャル・キャピタルが安全の主観的側面に与える影響についての考察、日本計画行政学会 第 33 回全国大会、2010.9.11、札幌大学。

④⑱ Ishida, Yu, Corporate Social Responsibility and Social Capital in Local Disaster Management, 9th international conference of ISTR (International Society for Third-Sector Research), 2010.7.10, Kadir Has University, Istanbul, Turkey.

④山内直人 (モデレータ)、(運営委員会企画パネル) 新しい公共とソーシャル・キャピタル：新政権をめざす市民社会像と政策課題、日本NPO学会第12回年次大会、2010.3.21-22、立命館大学。

④山内直人、スポーツとソーシャル・キャピタル (キーノートレクチャー)、同志社大学ライフリスク研究センター開設記念シンポジウム、2009.10.3、同志社大学。

[図書] (計 10 件)

①稲葉陽二・藤原佳典、ミネルヴァ書房、ソーシャル・キャピタルで解く社会的孤立 重層的予防策とソーシャル・ビジネスへの展望、(2013)、289。

②山内直人・田中敬文・奥山尚子編、大阪大学大学院国際公共政策研究科 NPO 研究情報センター、NPO 白書 2013、(2013)、191。

③山内直人・田中敬文・奥山尚子編、大阪大学大学院国際公共政策研究科 NPO 研究情報センター、NPONGO 事典：市民社会の最新情報とキーワード (2012)、309。

④山内直人・奥山尚子、経団連出版、『寄付白書 2012』(第 2・3 章執筆)、(2012)、227。

⑤西出優子・佐藤裕介編、東北大学経済学部非営利組織論ゼミナール、東北大学経済学部西出優子研究室、NPO の理論と実践—せんだいのフィールドより— 第 4 号、(2012)、pp.1-4。

⑥稲葉陽二、中公新書、ソーシャル・キャピタル入門、(2011)、198。

⑦山内直人・田中敬文・奥山尚子編、大阪大学大学院国際公共政策研究科 NPO 研究情報センター、ソーシャル・キャピタルの実証分析、(2011)、211。

⑧ Naoto Yamauchi, Naoko Okuyama, Midori Matsushima, Center for Nonprofit Research and Information, Osaka University, Japanese Civil Society at a Crossroad: CIVICUS Civil Society Index Report for Japan、(2011)、54。

⑨稲葉陽二 (編)、ミネルヴァ書房、ソーシャル・キャピタルのフロンティア—その到達点と可能性—、(2011)、261。

⑩西出優子監修、小林主茂編 東北大学経済学部非営利組織論ゼミナール、東北大学経済学部西出優子研究室、震災復興ボランティア

入門講座報告書—今日を創る、明日を変える、ボランティアのチカラ、(2011)、pp.1-2。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

山内 直人 (YAMAUCHI NAOTO)  
大阪大学・大学院国際公共政策研究科・教授  
研究者番号：90243146

### (2) 研究分担者

赤井 伸郎 (AKAI NOBUO)  
大阪大学・大学院国際公共政策研究科・教授  
研究者番号：50275301

石田 祐 (ISHIDA YU)  
明石工業高等専門学校・一般科目・講師  
研究者番号：20455524

稲葉 陽二 (INABA YOUJI)  
日本大学・法学部・教授  
研究者番号：30366520

大野 ゆう子 (OONO YUKO)  
生態防御医学研究所・教授  
研究者番号：60183026

金谷 信子 (KANAYA NOBUKO)  
広島市立大学・国際学部・准教授  
研究者番号：20509062

田中 敬文 (TANAKA TAKAFUMI)  
東京学芸大学・教育学部・准教授  
研究者番号：50236600

樽見 弘紀 (TARUMI HIRONORI)  
北海学園大学・法学部・教授  
研究者番号：50316238

辻 正次 (TSUJI MASATSUGU)  
兵庫県立大学・大学院応用情報科学研究科・教授

西出 優子 (NISHIDE YUKO)  
東北大学・経済学研究科 (研究院)・准教授  
研究者番号：60451506

松永 佳甫 (MATSUNAGA YOSHIHO)  
大阪商業大学・総合経営学部・教授  
研究者番号：60325561